

公益社団法人

東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会

会報第 3 2 号 2023.10.25 発行

本気になれば  
世界は変わる！



### < 目次 >

1. ご挨拶
2. 活動報告
3. 今後の予定
4. 特別寄稿・読み物
5. メーリングリスト  
ダイジェスト
6. 各種ご連絡



会員の皆様におかれましては、平素から東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会の活動に、ご理解・ご協力いただきまして、感謝申し上げます。徐々にではございますが、元の日常が戻りつつある中、私たちが更に活動を活発化させていければと考えております。

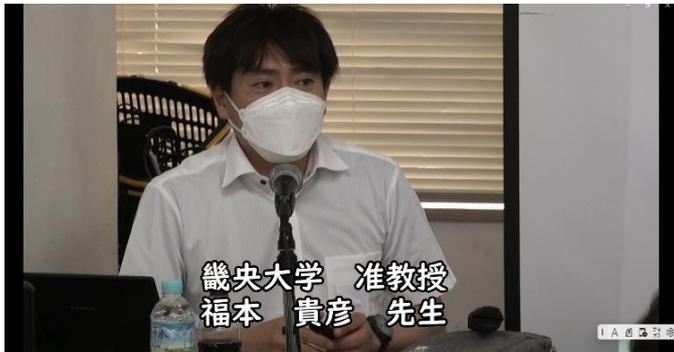
コロナ禍で、なかなか行うことが出来なかった対面での講習会も取り入れております。新たなツールとして確立されたwebも引き続き取り入れながら、より多くの方々とお会いできる機会を増やしていければと存じます。

活動が極端に制限された中で、都民の皆様の健康状況にも変化がみられていると思います。アフターコロナの心身の不調を、はりきゅうマッサージの力で癒していければと思います。

まだまだ油断の出来ない状況とは思いますが、会員の皆様におかれましても、お体ご自愛いただき、益々のご活躍を祈念申し上げます。

## 2. 活動報告

令和5年度第1回東京都委託施術者講習会  
「スポーツ現場での評価法と関節生理軸を意識したテーピング part2」講師 福本貴彦 先生  
R5年6月18日(日) 13:30~16:30  
ふれあい貸し会議室 秋葉原 A・秋葉原滝上



昨年に引き続き福本先生にスポーツ現場での評価方法と関節生理学を意識したテーピング(上肢編)をお話してもらいました。

○この度、東京都鍼灸マッサージ師会が主催する福本貴彦先生によるスポーツ現場での評価法や上肢のテーピング実技に親子3人で参加させて頂きました。肩関節のゼロポジションについては明日から即、現場で使える内容で大変参考となりました。テーピング実技もノーマルから福本先生オリジナルまでエビデンスに基づいた巻き方を教えて頂き、目の不自由な先生方に対してもわかりやすく指導してくれていました。福本先生のお人柄と大学での研究内容を惜しげもなく出してくれた充実過ぎる講義でしたので次回も又、参加したいと思っております。早くから準備などに携わった都師会の先生方、福本先生、会員の皆様、有り難う御座いました。(Y.O)

○昨日は、大変お世話になりました。とても有意義な時間を過ごさせて頂き誠にありがとうございました。福本先生のご講義は大変分かりやすく、トップアスリートの方々にも結果を出しているのとても説得力がありました。スポーツ好きな私にとっては興味深い内容ばかりで非常に面白かったです。また機会がございましたら、よろしくお願いいたします。(M.O)

○今日はありがとうございました！

都内で研修を受けるのは初めてだったのでとても有意義な時間になりました😊

先生方とも直接お話しできてうれしかったです♪  
お声をかけてくださりありがとうございました！  
今後ともよろしくお願いいたします🙏(U.S)

○本日はありがとうございました。

早速明日の利用者さんに使えるはなしでしたので、復習して明日からの臨床に活かしたいと思います。

本日、福本先生に右手首にテーピングを巻いていただきましたが、関節の安定感があり痛みもほぼ消えています。

先程外してしまいましたが、外したあとも動かしなくても、しっかりと関節が安定している感覚があります。左手首も関節がゆるく痛みが強いのですが、こちらはテーピングは巻きませんでした。

左右で状態が違うので比べるのは少し違うかもしれませんが、

全く感覚が違うことに驚いています。(S.M)



## R5 年度第2回東京都委託施術者講習会

「 名医に教わる生活習慣病 」

講師:内田俊也 先生

R5 年 7 月 23 日(日)13:30~16:40

ワィム貸会議室 神田8A



私が勤めている治療院では、基礎疾患をお持ちの高齢者患者がよくみられ、そういった方々を施術する際、同じ頸肩腰痛でも考慮しないといけない要因がより複雑で、体調はこれらの疾患に左右されやすく、患者とご家族から生活指導を求められる場合もあり、筋肉・神経以外に、内科(脈管系)についてもっと学びたいなあと思いました。また、患者やご家族からよく基礎疾患に関する病院の検査結果や投薬情報を共有されるので、西洋医学の観点からもある程度理解と共通言語を習得しないと、せっかくの情報が活用できません。

高齢患者に多いのは、高血圧、腎臓病、糖尿病、痛風、脂質異常症などの基礎疾患です。これら基礎疾患が進むと、さらに脳梗塞、心疾患、透析などの重症に増悪しがちです。日々の施術に加えて、適切な生活指導ができれば、増悪のリスク下げ、ペース延ばしができれば患者の QOL 向上につながります。それでこういった基礎疾患の専門家の内田俊也先生をお招きしてお話をしてもらおうことにしました。

今回の講習会を通じ、こういった基礎疾患についての知識と理解を深めることができました。参加された先生方の今後の臨床に何か参考になることがありましたら幸いです。都師会 YouTube チャンネルに UP されたので、興味のある方は是非ご視聴ください。

### <参加者からの感想>

私たち鍼灸師は、直接患者さんに医学的な治療をする事は出来ません。

しかし、ちょっとしたアドバイスをする時に、正しい医学的な知識が有ると無いのでは、雲泥の差があるなと思いました。

これからも、尚一層、最新の情報を集めていくのが大切だなと、感じました。——O.M さん

## R5 年度第3回東京都委託講習会

『フレイル予防における あはき師の役割 』

講師 栗原勝美

元東京都立文教育学校主任教諭

日本理療科教員連盟 前会長



『フレイル』という言葉をご存じの先生方は多いと思いますが恥ずかしながら私自身は聞いたことがある程度でした。

講習会では『フレイル』とは何かを知り、その種類、そしてスケールを用いての患者様の詳細な状態把握。また身体的、精神的、環境的などの『フレイル』が複雑に絡み合い影響を及ぼしている状態であることを学びました。しかし最も大切なことは、そのような状態からどのような方法で予防改善を行っていくかであると思います。

今回実技においては、主に口腔フレイルに対するアプローチで誤嚥性肺炎予防にたいする嚥下運動や舌を口腔内で回転させる運動、また舌根を鍛える運動。身体的フレイルによる腰痛予防に対す多裂筋へのアプローチは鍼通電療法を用い、膝関節の屈曲困難に対するアプローチとして関節離間術など手技を用いた実技が個人的に印象に残りました。

当然一例にすぎませんが私としてはすぐにこれらを活用していきたいと考えています。またおそらく多くの先生方は言葉や形式が異なってもすでに実践されていることと思いますが再確認の意味で理解がより深まったのではないかと私は確信しております。

最後に今回講習会を終えて、我々の業とは、患者さんの体の訴えを聴き、症状の予防と改善に全力を注ぐことですが、そのためには施術を通して多角的な観点からアプローチしていただくことが再認識できました。

フレイル予防におけるあはき師の役割りは非常に重要で『師』が付けられている以上その名に相応しい施術者ありたいと感じました。

## 2023年度 初学者講習会開催報告

本年度は 7 名の先生方が講師を務めて下さいます。以下、前半の活動実績です。

### ●戸ヶ崎正男先生

「切経探穴「臨床四方八方(よもやま)－技(わざ)あり、嘸(はなし)あり」初級 7/9、中級 6/11、9/11

### ●鈴木春子先生

「緩和ケア、疼痛治療、患者に寄り添い癌に特化した鍼灸の治療方法」8/6

### ●鈴木幸次郎先生

「お灸を中心にした臨床」7/2、9/3

### ●奥住知子先生

「治療家の手を作るための手技療法」7/2、8/6、9/3

### ●石山祐司先生

「よい治療家の身体作りのために『氣を感じてみよう』」9/11

### ●角屋明彦先生

「語る指圧:中国医学の〈治療世界系列〉WEB 講習のみ」4/20、5/19、6/15、7/20、8/17

後半からは加藤蓬悦先生「柳谷素霊晩年の弟子 伊藤瑞鳳先生の技を伝える」9/23 が始まります。

各先生開催回によってはまだ空席があり、途中参加が可の所もあります。御興味のある方は、当会事務局までお問合せ下さい。

また、参加者の声を幾つかご紹介いたします。

### ●戸ヶ崎正男先生中級に参加して(S学園卒K)

昨年度に続き戸ヶ崎先生の講座を受講しています。私は開業して十〇年経つ初学者ではありませんが、何年か臨床を経てからお話を伺うと、改めて解る事が多く本当に勉強になります。戸ヶ崎先生の技や知識のみならず、戸ヶ崎先生が辿っていらした鍼灸の道程も随所にお話くださり、一人の臨床家が歩む道を俯瞰できるのも素晴らしい経験になります。



### ●鈴木春子先生講座に参加して(T.S)

前年度も鈴木春子先生の講座に参加しましたが、前年度と違って 実技時間が大部分でした。新しい内容で各種がんの臨床症例研究と その施術例 またその症例のツボの選択 等々。前年度の座学が主と比べるとずっと实际的ですぐ役立ちそうでした。講習者生同士ペアで 相互に模擬施術の練習があり特に良かったです。鍼灸を学びながらも、みんな各々 体に辛い部分がありますので。

かつてモデル患者をした時、春子先生の羽毛の刷毛のようなで鍼の気持ちよさに、先々のいつの日か自分も練習してできるようになりたいと思っていた。今回実際に、「てい鍼」の握り方を習ってやってみた初めてなので肌にザラザラと粗いさわり具合で。やり方が分かったのとは練習あるのみ。思いのほか目標が早くに達成できて嬉しく思いました。

配布資料の写真は、施術の場面や症状の状態など現場の雰囲気も良く感じられるものでとても貴重なお写真に感謝です。私の知り合いにもトリプルネガティブ乳がん手術後1年の女性と 81 歳の腹部悪性リンパ腫手術後 1 年の女性がいて先々、いつの日か施術してあげられたらと思っています。我々初学者にはなかなか拝見できないチャンスのないデータに春子先生のご親切と教えてくださろうとする熱意を感じました。

いただいた配布資料のなかで、さっそく役立てて使ってみたいものも多くあり、また解らないところも多々あり、講習後の有志参加の懇親会の時にでも、またお聴きたいです。質問は山のようにありますので。

鈴木春子先生ご自身が努力されてきた成果を 後進に伝えたいという想いを受け止めて、後に続く若い方々が引き継いで精進していきましょう。



●鈴木幸次郎先生の第1回目講座を受けて(N.H)

「散鍼散灸(さんしんさんきゅう)」という、野球で聞こえてきそうな響きのキーワードで始まった第1回目の鈴木幸次郎先生の講座。今回は透熱灸と散鍼のお勉強。

散鍼の中で習った接触鍼。鍼を持つ母指・示指の動きと手首の動きはガチガチ。きつと手技を行っている姿勢もガチガチだった事は容易に想像できる。滑らかさが全く感じられない。手技を意識するあまり、左手は疎かに。患者さんに対して行える技術になるには、先が長そう。地道な練習の積み重ねがあるのみ。

学生時代にクラスメイト同士で行った透熱灸。自分の両陰陵泉には勲章の様に残ったこげ茶色の丸いお灸の痕が。その為、「透熱灸＝熱さに震えながら我慢する施術」という印象が強い。学生だったので技術もない為仕方がなかったけれど、患者への施術として火傷を作ってしまうと考えるとどうしても後ろ向きになっていた。先生からは、「施術として行っている為、火傷させるものだ」と思って行っている。患者もそれを望んで治療を受けに来る」という話から、透熱灸の目的をしっかりと考えて施術に取り入れていかなければならない。今回実技練習でペアを組ませて頂いた方の透熱灸は心地よい刺激だった為に学生時代の印象が緩和された講座となった。



●「治療家の良い手をつくる」を受講して 呉竹鍼灸柔整専門学校(学生)F.S.

私が「鍼灸あま指」の道に飛び込んだのは、立て続いた両親と愛犬のがん闘病に寄り添い、自宅での看取りを経験し、同様に苦しまれる患者様とご家族様を思い、終末期ケアに携わりたいと思ったからである。そのために、なんとしてでも、苦痛をお持ちの方々に安らぎと希

望をお届けできる手を作りたいと思っている。

そして楽しみに参加した、奥住先生の掲題の勉強会だが、期待を遥かに上回るものであった。とにかく奥住先生の魅力に引き込まれた。学校は毎日とても楽しく通学しているが、覚えることの膨大さにしんどく不安になることもしばしばある。しかし、奥住先生の講義より、気持ちが高揚した。

- ・外からの情報を鵜呑みにしない、自分の感覚を大切に
  - ・できなければ死ぬほど頑張る
  - ・色々な先生、人がいてよい
  - ・患者様のために自分が存在する、目の前の患者様をどう治療して差し上げるか
  - ・自分の施術スタイルを崩すのは患者様への裏切り行為
  - ・100人の患者様に来ていただくより、1人の患者様に100回来ていただく
- ほかにもたくさんの名言をいただければ、鳥肌が立った。

また、実技では、まず軽擦について教授いただいた。私はこれまで、軽擦を、手技前後の流しと患者様の大まかな情報の読み取りとしか捉えていず、適切な手技で行えば、軽擦だけでも患者様のお体が変わることを知り、目から鱗であった。そして軽擦には、術者のすべてが現れるとのこと。軽擦に対する意識が変わった瞬間であった。

そして、足底との対話の時間では、意識をそこに集中した。すると、何か無言の音が聞こえてくるようであった。まだそれが具体的に何の訴えかまではわからないが、これから研ぎ澄ましていかねばならないその感覚の第一歩を学んだ。

奥住先生のデモでは、患者様を優しく包み込むしなやかな手捌きのもとより、奥住先生の表情にも注視して拝見した。それはゆったり、穏やかな顔をされていた。術者の気持ちはそのまま患者様に伝わるのは、自分も介護の経験よりそれとなく知ってはいたが、まるでご来光が降り注ぐかのようなその表情は、自分が終末期の患者だったら、この生に幕を閉じる瞬間まで、安らぎと希望をもっていられるに違いない、そう確信するものであった。

自分も、患者様とご家族様に、それらをもつお手伝いが  
できる施術者を目指して、知識と技術の習得に貪欲に  
励んでいきたい。翌日の授業や自主練習より、このたび  
教授いただいたことを早速意識して実践している。

このたびこのような機会をご提供くださった奥住先生  
と助手様ならびに都師会各位に、心より感謝申し上げ  
る。奥住先生の次回以降の勉強会が益々楽しみである。

#### ●奥住先生勉強会に参加して(T.H)

奥住先生のパワフルなエネルギーをもらいながらの講  
義、内容もテンポも心地よく、3時間が本当にあつとい  
う間でした。初学者が直面しがちな現場と学校とのギャ  
ップに対峙しつつ、あはき師として生き残っていくため  
に大切なこと、患者に受け入れてもらえる治療を提供  
できるようになる心構えなどをお聞きすることができ  
ました。(内容はネタバレになるので、割愛！)

良い手を作るための実技では、相手の体が変わって  
いく様を目の当たりにして、実技は楽しい！手の感覚をも  
っと身につけたい！と思いました。次の受講が楽しみです。



## 3. 今後の予定

### R5年度第5回東京都委託施術者講習会

「鍼灸とは何か」～地域医療において鍼灸院がアピール  
しなければならないポイント～

#### ●講師

鳥海春樹先生 (■(医社)健育会 湘南慶育病院 鍼灸  
科部長 ■鳥海鍼灸院 院長)

#### ●内容

「鍼灸とは何か」～地域医療において鍼灸院がアピール  
しなければならないポイント～

#### ●開催日時

R5年11月19日(日)14:00～17:10  
(13時半開場)

#### ●参加費:無料

#### ●参加方法

①会場参加・・・定員 50 名

②WEB 参加・・・定員 100 名

※受付は先着順です。会場参加の定員に達した場合は  
メールにてご連絡します。

#### ●会場:NATULUCK 淡路町 会議室

住所:東京都千代田区神田司町 2-6-1 荒木ビル 7 階

#### ●配信

リアルタイムの zoom 配信、後日の YouTube 公開(都  
師会チャンネル)

都師会 R5年度第5回  
東京都委託施術者講習会  
**11/19** (日)  
14:00~17:10  
(開場13:30~)  
参加  
無料  
鍼灸とは何か

～地域医療において鍼灸院がアピール  
しなければならないポイント～

講師 鳥海 春樹 先生  
(医社)健育会 湘南慶育病院 鍼灸科部長  
鳥海鍼灸院 院長

会場 NATULUCK淡路町 会議室  
〒101-0048  
千代田区神田司町2-6-1 荒木ビル7階  
東京メトロ丸ノ内線 淡路町駅 (A2) から徒歩3分  
都営新宿線 小川町駅 (A4) から徒歩3分  
JR山手線 神田駅 (北口) から徒歩6分  
東京メトロ有楽線 神田駅 (5番) から徒歩5分

定員 会場 50 名 WEB 100 名 ※先着順

お申込み・お問い合わせ

都師会 事務局

☎03-3252-8811

受付時間：平日9:30～16:30

お申込はHPかQRコードから

<http://tokyo89am.or.jp/>

都師会 検索

✉toshikai8811@ybb.ne.jp



## R5年度第6回東京都委託施術者講習会

「なぜ当院からたくさんのオリンピック、世界大会選手が育つのか？」

### ●講師

- ・松浦浩市 先生
- ・松浦治療院長
- ・KTS 倉敷トレーナーズサポート協会会長
- ・日本陸連 A 級トレーナー
- ・四国医療専門学校非常勤講師
- ・東京オリンピック、パラリンピックポリクリニックスタッフ
- ・岡山大学医学部大学院非常勤講師
- ・(公社)岡山県鍼灸師会副会長

### ●内容

ノウハウとケア、試合に間に合わせるコツ♥大切なのは医療連携・スポーツ連携そして災害連携！全て整った時、本当の幸せの完成系となる。

### ●開催日時

R5年12月17日(日)14:00~17:10

(13時半開場)

### ●参加費:無料

### ●参加方法

①会場参加・・・定員 50 名

②WEB 参加・・・定員 100 名

※受付は先着順です。会場参加の定員に達した場合はメールにてご連絡します。

### ●会場:ワイルド神田 8A

住所: 東京都千代田区内神田 1-18-12 内神田東誠ビル8F

### ●配信

リアルタイムの zoom 配信、後日の YouTube 公開(都師会チャンネル)

### ●申し込みフォーム

<https://onl.tw/j7A7H9Q>



## 4. 連載・読み物

鍼灸マンガラー東洋思想と鍼灸

第3回 診察・診断について

片桐正喜



●四診に対する違和感 東洋医学の代表的診察法として、望・聞・問・切の四診があります。しかし、私は師匠(故・坂井秀雄先生)について鍼を学ぶうち、四診にある種の違和感というか、「そもそも診察を望・聞・問・切と分類すること自体に大きな問題があるのではないか」と思うようになりました。今回書くことは、非常に抽象的でわかりにくいので、先に結論を述べておくと——望・聞・問・切(というより診察技術そのもの)は本来切り離せない、渾然一体となったもの——最終的には患者や空間との「一体化」や「感応」によるものであり、しかしそれはあまりに抽象的で言葉にできないがゆえ、後世に伝えるために要素を分割し、説明しやすくしたのが「望・聞・問・切」であり、ところが一度切り離れた「望・聞・問・切」は、「頭の中」で四診合参しても、その精度は低いところにとどまってしまうのではないかと——ということです。

●「直下に見ろ」 師匠からは、学校で学んだ診断学とは全く違う指導を受けました。特に「直下に見ろ!」「診断則治療」だ。治療しながら、同時に指先で患者の変化を感じつつ、鍼の打ち方を変化させろ」という二つは、何十回と聞かされました。「直下に見ろ」とは「自分の知識や観念を入れず、ありのままに(患者を)見ろ」という意味であり、出典は柳宗悦(日本の美術評論家、思想家)の言葉と思われまふ。これとセットで「頭で考えるな、“感じ取れ”。知識で治療しても、患者は絶対に治らない」とも言われました。例えば、西洋医学の「診断」では、患者を病名という「用意されたカテゴリー」に割り振っていきます。しかし、師匠は何かしらのカテゴリーに「患者を当てはめていく」ということを極度に嫌われていました。(中医学の弁証論治も「あんなの迷信だ」といった感じでした) つまり、患者が 100 人いれば、100 通りの体質・原因・症状・反応の出ている

ツボがあるわけです。にもかかわらず患者を「用意されたカテゴリー」に割り振り、マニュアル化された治療をしても、必ずしも「その患者」にベストとなる治療とはなりえません。ですが、なまじ知識があると、患者よりも知識(定型化された診断・治療など)に目が行き、「直下に見る」ことができず、その患者にとっての最善の治療ができなくなってしまうわけです。では、師匠は具体的にどのような診断をし、弟子にどのような指導をしてきたのか——実はこれを説明するのは非常に難しいのです。なぜなら診断においても、問診と指圧以外に「定型化された診断」など存在しないからです。(※実際は問診も指圧も“臨機応変”で、完全に定型化されてはいません)

●雑務の中でも 師匠からの「診断」の訓練は、治療(指圧等)の時のみならず雑務の中でも叩き込まれました。例えば昔、まだ師匠についたばかりの頃——新規の患者から予約の電話が入り、私が対応して師匠に伝え、「何歳くらいの人だ？」と聞かれ、「年齢は聞いていなかったのですが……」と答えると、「鍼灸師が、声を聴いただけで相手の年齢を推測できなくて、どうするんだ!!!」と、メチャクチャに怒られたことがありました。このときは、「何でこんなに怒られたんだろうか」と思いましたが、すぐに気づきました。「ああ、これは問診だ」——すなわち、問診(聴覚・嗅覚による診断)ができてなかったから怒られたのだろう、と。しかし、同時に違和感もありました。昔、ある本に「問診は、患者が治療室に足を踏み入れた時の、その足音から始まる」と書かれていたのを覚えていて、私はしばしばそれを意識していたのですが、予約電話を受けたときは、まだ治療は始まっていません。ですが、師匠の指導を受けるうち、これには深い意味があったことがわかりました。

●師匠の診断 師匠は舌診も脈診もなさらず、弟子にそれらの指導もしません。代わりに(前回書いたように)ひたすら指圧をやらされ、「指先の感覚」で患者の状態を把握する訓練をさせられました。他にも、患者の話し方や、何気ない発言、ふとした行動等から垣間見えるものにも意識を向けさせられます。例えば問診の時、患者が目を合わせないなどの些細なことも、重要な指標の一つとなります。「それは視覚を使うから望診だろう」というかもしれませんが、望診、望診という人は、おそらく舌や顔面の色、疼痛回避行動など、本に載っているようなことにしか意識が向かず、「言われてみれば

……」的なことには、案外気づけないのではないのでしょうか) まとまりのないことを書き連ねてしまいましたが、何が言いたいかというと、師匠の診断には、望・聞・問・切をはじめとする「定型化された診断」は存在しません。ここに存在するのは、患者のあらゆる情報を、「五感」と「気感覚」を通して絶えずインプットし、“無意識”に統合処理して、——次にそれと同時並行で、リアルタイムでアウトプット(治療)を変化させる訓練です。治療中、患者の体は一瞬一瞬変化していくので、その変化を微細に感じ取りながら、鍼を打つポイント・本数・番手・刺入深度や、灸の壮数などを変えていくのです。「これを全て、“無意識”的に、何も考えずとも、普段から当たり前前にできるようになれ」というのが師匠の教えでした。(“無意識”的にできなければならないので、先ほどの電話の話など、怒られて当然だったわけです) 私は、これは「治療家としての、一種の条件反射」を構築する訓練だと思っています。教科書には存在しない、それこそ言葉で伝えられない、「実践をひたすら繰り返す」ことでしか体得できない診断・治療技術ですが、しかし、これこそ鍼治療の奥義の一つではないかとも思うのです。(奥義などと書きましたが、師匠によれば「これが、一瞬一瞬当たり前前にできていないようではダメだ!!」なのです)

●患者との感応・一体化 これらを意識しつつ何年も治療していくうちに、時として患者との「感応」あるいは「一体化」のような感覚を生じたこともありました。これも言葉にできない感覚ですが、例えば(第2回で書いた)患者の体の悪い部分に、磁石のように手が引き寄せられるといった現象は、こういった時に起こるのかもしれませんが。江戸時代の漢方医で、吉益東洞の門下生でもあった和田東郭の『蕉窓雑話』にも、「古人ノ病ヲ診スルヤ、彼ヲ視ルニ彼ヲ以テセズ、乃チ彼ヲ以テ我ト為ス。其レ既ニ非我ノ分無シ。是ヲ以テ能ク病ノ情ニ通ズ。」——すなわち、いにしへの診断は、医者が患者と一体化することにより病の状態を把握するものだったと記されています。その直前には「古人は病を診る時、患者を見るのに目だけではなく、声を聞くのに耳だけではなく、……だからうまく病気の状態を察することができた」とも記されていますが、これは先の「絶えずあらゆる情報をインプットし、無意識に統合処理する」ことに関連しているようにも思います。

●局所から全体へ、全体から局所へ この訓練は、第

1 回で触れた「(空間的・時間的に)すべてはつながっていることを意識して治療すること」とも関係します。例えば、うつ傾向で仕事ができない——という男性が通院していた時期がありました。割としっかりした体をしているのに、運動不足で、しかし首だけはガチガチ、会話をしても言葉が明瞭ではありません。師匠はこの患者に一通り治療をされた後、「あれは、相当に緊張があるな。首を指圧しただけで分かる。しゃべり方もそうだ。親が〇〇(職業)だから、家でも相当抑圧されているんだろう。だから心も萎縮して、緊張で首がガチガチなんだ」と、治療院の奥で、小声で私に解説してくださいました。ここで注目すべきは、師匠は治療において「異常な首のコリ」というピンポイントの症状から、患者の空間と時間全体(全身状態と環境的要因、発症までの経過)にまで一瞬にして視野を広げ、もう一度指先を通してツボという全身の「ピンポイント」に意識を戻しているということです。つまり、(1)局所という枝葉から全体(本質)を把握し、(2)全体(本質)を背景に、指先でツボ(局所)を探る——という一連の作業を、同時並行・無意識に行っているのです。これと関連すると思われる記述が、野口整体の創始者・野口晴哉の『整体操法教授書』にあります。指一本を見て全体を感じる者にのみ全体が見えるなり。全身くまなく見つめても全体を感じること出来ぬなり。全体を見るといふこと、全身の部分を眺めたるを寄せ集めたるものに非ざるなり。しかも全体を知ってのみ、部分の異常の性質が判るなり。(野口晴哉『整体操法 教授書』) 鍼の世界には、今回書いたような言語化不可能な技術が多く存在するように思いますが、実践を続けさえすれば必ず習得可能なものであると考えます。地道な修練を継続することで、先人の道をたどり、師の道を修め、我が道を切りひらいていきましょう。

## 東京都鍼灸あん摩マッサージ指圧師会の皆様へ 『これからの経営戦略』

岡野 信久 理事



去年(R4 年)の 2 月、私は都師会の黒澤理事長に退会の申し入れを行った。理由は売上げ減少による経営

困難である。当時 5 名の鍼灸マッサージ師(パート含む)が働いていた。毎月 30~50 万円前後の赤字に耐えられなくなった。訪問鍼灸マッサージを開業して、18 年が経っていた。その時、黒澤さんが「辞めないで…」と慰留して下さった。今に思えば、都師会の組織の有難さをしみじみと感じる。「解りました。退会を受け付けます」と黒澤さんが言ったらこの寄稿は書けなかったと思う。改めて心から黒澤さんにお礼を申し上げる。何故そんな私が、「これからの経営戦略」について書けるのか？その理由は「ダブルワークでV字回復」を、成し遂げつつあるからである。すぐに結果をだせたのではない。私が 30 歳で 4,500 万円の倒産を経験した時からの 40 年間の下積みが功を奏したのである。今、日本の産業は大きく変化しつつある。そごう・西武デパートの閉鎖、冠婚葬祭の縮小、ウーバーイーツ等の宅配増加。我々業界を見渡せば無資格者の増殖は目に余る。そのような状況下で、果たして売上げを伸長して、豊かな生活を獲得できるのか？厳しい現実が横たわっている。

私が倒産した原因は数多くある。①嘘つきだった。②相談をしなかった。③営業が出来るといううぬぼれがあった。④経営の何たるかを知らない無知であった。数えれば数えきれないほど多くの反省点が浮かび上がってくる。70 歳になった今、もしV字回復してなかったら私の 40 年間の学びは無駄だった事の証明になる。正直なところ安堵している。倒産した時、私はうつ病(医師は心身症と診断名をつけていたが…)で精神病院の閉鎖病棟に入院させられていた。

経営者失格の烙印を押され、これからどのように生きていけばよいのか皆目見当がつかなかった。それよりもあの世に行きたかった。それでもいろいろな本を鉄格子のなかで読み漁った。今でも忘れられないのが「強く生きる」だった。でもそれがうつ病の私にはできないのである。この回答には約 12 年を要した。いやうつ病から解放されたのが正しい答えかもしれない。かつて、松下幸之助は「売上げ増大がすべてを治す」と言っている。その通りなのである。売上げが減少すると、弱気になり益々回復しない。まさしく貧すれば鈍するのである。

40 年間に亘る経営の学びを、7回シリーズ(今回を含めて)に分けて会員の皆様へお伝えしたいと思う。目指すはどんな状況下でも生き残れる零細企業造りである。

## 5. メーリングリストダイジェスト

メーリス通信(会員向け)は、R5年 7 月～10 月前半の間計 9 回(ml:033～041)配信しました。

まだ登録されていない方もいるので、一部配信内容のダイジェスト版を報告いたします。詳細について知りたい方は事務局までお問い合わせください。

一部申込期限切れの内容(Exp が該当)もありますが、ご了承ください。

### ml:033

1 第15回JIMTEF 災害医療研修ベーシックコース(オンライン)開催のお知らせ!(Exp)

2 令和 5 年度「認定訪問マッサージ師」「認定機能訓練指導員」講習会のご案内(Exp)

3 「第 22 回東洋療法推進大会 in 岩手」開催のご案内(Exp)

4 令和 5 年度 厚生労働大臣免許保有証の受付開始のご案内(Exp)

### ml:034

1 「令和 5 年度第 2 回東京都委託施術者講習会 7/23(日)開催のリマインド」(Exp)

2 東洋療法推進大会 in 岩手 「症例報告・臨床研究」発表者募集について(Exp)

3 訪問医療マッサージの有効性と安全性に関する研究報告書 のシェア

(公社)全日本鍼灸マッサージ師会 学術委員会  
2022 年度 訪問医療マッサージ研究プロジェクトにより行った本研究は、療養費を用いた訪問医療マッサージの有効性と安全性を検討するため、訪問医療マッサージにより改善した要因を、患者の属性や施術方法などの関連性から分析するとともに有害事象について把握した。

詳細はこちら↓

「患者の状態改善要因と有害事象に関する調査」

<http://bit.ly/3Omamvt>

### ml:035

1 令和5年度東京都医療機関等物価高騰緊急対策支援金の概要について

(申込期限:10月27日) 詳細は ml:041 ご参照

### ml:036

1 令和 5 年度第3回東京都委託施術者講習会 9/17(日)開催のご案内(Exp)

2 令和 5 年度第 4 回東京都委託施術者講習会 10/29(日)開催のご案内

(受付中→)



3 子ども・若者の自殺防止に向けた取組の強化について(周知)

4 墨田区医療機関等物価高騰対策緊急支援金交付事業について(Exp)

5 初学者のための勉強会～よい治療家の身体作りのために『氣を感じてみよう』(HP 参照)

6 第16 回JIMTEF災害医療研修ベーシックコースのご案内(Exp)

7 第 15 回・第 16 回 JIMTEF 災害医療研修 アドバンスコースのご案内(Exp)

### ml:037

1 セミナー「療養費改定とマイナンバーについて」10/22 (日)開催のご案内(HP 参照)

2 「鍼灸の思想を学ぶ会(松塾)」10/7(土)開催のご案内(Exp)

3 令和 5 年度第3回東京都委託施術者講習会 9/17(日)開催のご案内(リマインド)

4 インボイス制度に関する周知等について(周知依頼)

5 コロナ禍における鍼灸施術の現状に関する調査への協力をお願い

6 「認定訪問マッサージ師」「認定機能訓練指導員」講習会 参加者募集中

### ml:038

ml:037 の1の一部内容訂正

### ml:039

1 令和 5 年度第 5 回東京都委託施術者講習会「鍼灸とは何か」11/19 (日)開催のご案内

～地域医療において鍼灸院がアピールしなければならないポイント～(New)

2 令和 5 年度第 6 回東京都委託施術者講習会 12/17 (日)開催のご案内(New)

「なぜ当院からたくさんのオリンピック、世界大会選手が育つのか？」

**ml:040**

1マイナンバーカード活用等について【周知のお願い】

**ml:041**

1令和5年度東京都医療機関等物価高騰緊急対策支援金の受付開始のお知らせ

当支援金の申請受付が開始されました。対象の先生や治療院は、締め切りの10月27日までに下記申込フォームから申請を行ってください。

対象事業者:

東京都にあはき又は柔道整復師法の規定に基づき開設している施術所のうち、療養費の受領委任の取扱いを行う施術所、または償還払による保険診療を行っている施術所に限る。

対象期間:

令和5年4月1日から令和5年9月30日まで

支援金の基準単価:

対象の施術所には、光熱費に対し、基準単価は5,000円となります。

手続きフロー

①下記申込フォームのなか、「施術所申請フォーム」ボタンを押下、次に進むページに必要事項を入力し、送信してください。

②申請後、都保険医療局の事務局で審査を行い、提出書類ご案内します。案内に従い、必要書類を提出して下さい。

③必要書類の審査完了した後、審査完了メールが届きます。(11月)

④東京都から支援金を支給されます。(12月以降)

申込フォーム

<https://iryo-bukka.hp.peraichi.com/form>

## 6. 各種ご連絡

当会上部団体全鍼の公式LINEのご案内

当会上部団体の全鍼の公式LINE立ち上がりました。みなさま「友達登録」をよろしくお願ひします。LINEの[ホーム]ボタン⇒右上[友だち追加]ボタン⇒🔍検索ボタン⇒IDを選び⇒検索内容欄に、@726dytgを入力或いはコピーし、🔍マークで検索すると追加できます。

(公社) 全日本鍼灸マッサージ師会

LINE公式アカウント「友だち募集中」

ID : @726dytg

URL : <https://lin.ee/jzAXASO>



### 会員向けアンケートご協力のお願い

夏の暑さもとうとう終わり、肌寒い日がやってきました。会員の皆様への治療院案内を都師会のホームページに掲載したいと考えております。ご希望の方は、同封した紙に情報を記載し、それを郵送、ファクス、またはGoogleフォームで入力して送信していただければ幸いです。また、今後は区市町村の鍼灸マッサージ師会との関係を強化したいと思っており、都師会の理事からお電話を差し上げる予定です。お忙しい中、お時間をいただき、ご対応いただければ幸いです。その際、都師会へのご要望やご提案があれば、どうぞお話しください。お電話が難しい場合は、Googleフォームに対応項目を設け、そちらから入力いただけるようにいたします。なお、機関誌はホームページからもご覧いただけます。機関誌の郵送をご希望されない方は、Googleフォームに入力をお願いします。



公益社団法人

東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会

発行者 成田 卓志

〒101-0042

東京都千代田区神田東松下町 37-4

TEL 03-3252-8811

FAX 03-3252-8813